

消防用設備等の点検制度の検討報告について

(本格的、蓄圧式消火器の時代へ)

消防庁（予防課）では、①防火対象物の高層・深層化、大規模複雑化に伴う消防用設備等の設置数の増加と、高度な技術を用いた消防用設備等の出現、②建築物の長寿命化に伴い、設置されている消防用設備等の長期使用が進み、経年劣化による不具合の増加、③消防用設備等の点検報告制度が施行されて33年が経過、人員不足などによる質の低下などの課題を背景に、消防用設備等の点検の精度向上と簡素合理化を図るための方策、適正点検の推進のための方策等について検討されこのほどその報告がされています。

この検討の中で、弊社が主力に販売している『蓄圧式消火器』が、点検や維持管理上の取り扱いが容易な構造であるとのことから、高く評価されています。

〔1〕長期使用に伴う経年劣化への対応

- ◆ 課題 ①消防用設備等についても、長期使用に伴う経年劣化により、不具合や事故の発生が見られる
②また、製品欠陥や外観上確認しづらい経年劣化等に起因する故障については、個々の利用者において事前に察知することが一般的に困難。

● 対応の考え方

『個別の防火対象物における点検内容等を経年劣化に対応したものとしていくとともに、これを補完するため製品全体としての安全確保策を推進。』

- ①経年劣化の影響が懸念されるものについては、長期使用に伴う劣化状況を把握するための点検項目を導入。
- ②点検票を用いた不具合や補修等の履歴管理を徹底し、点検や維持管理の内容に反映。
- ③製造事業者等から利用者へ設計標準使用期間を周知し、適切な予防保全や廃棄・更新等を促進。

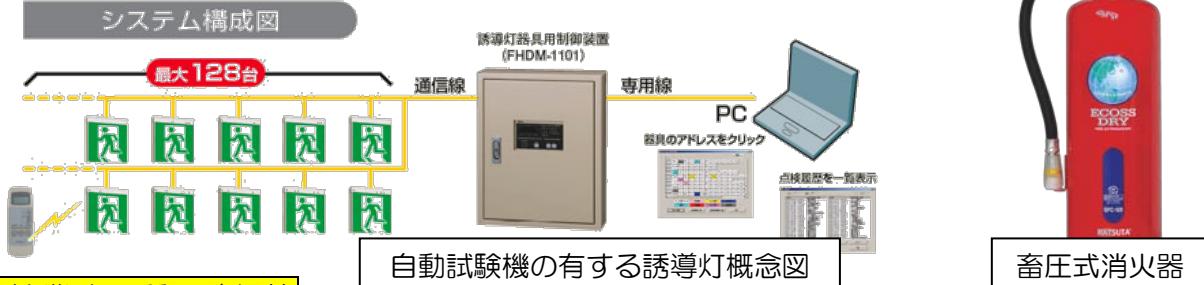
〔2〕新技術を活用した点検報告の実効性確保

- ◆ 課題 ①点検報告の実施率は約4割程度にとどまっている状況。
②特に小規模な防火対象物において低調な状況であり、現行基準に従って点検報告を行うための技術や人員等を確保することが難しくなることが要因の一つとして考えられるところ。

● 対応の考え方

『小規模な防火対象物において点検や維持管理が容易な消防用設備等の導入を進めるなど、新技術を活用して防火対象物の実情に応じた点検や維持管理の方法を整備。』

- ①点検や維持管理上の取り扱いが容易な構造の蓄圧式消火器の導入。
- ②自動点検機能を有する誘導灯の導入。
- ③その他の新技術の活用。



〔3〕点検業務の質の確保等

- ◆ 課題 消防用設備等の点検業務についても、過当競争による質の低下が懸念されているところ。
また、いわゆる点検商法による高額請求の事案が散見されるところであり、その要因として防火対象物の関係者等における知識不足や関心の低さがあると考えられるところ。

● 対応の考え方

『点検業務の実施体制や内容について関係者間における共通認識を醸成し、点検業務の質の確保等を支援。』

- ①点検の実施に要する人員体制等について、「建築保全業務共通仕様書」（国土交通省）の積算基準等を目安として情報提供。

- ②点検票を用いた不具合や補修等の履歴管理を徹底。

蓄圧式消火器のPR



蓄圧式消火器は、放射圧力源として窒素ガス(N2)が常時0.7~0.98Mpaで蓄圧されており、レバーを握ることにより、消火薬剤がサイホン管を通じ、ホースより放出されます。

■日常点検は、ゲージ圧の確認でOK

蓄圧式の場合「圧力ゲージ」の針がグリーンゾーンにあることを確認してもらえば充分です。加圧式の場合の判り難さと比べれば、維持点検の簡単さは抜群です。



■古い加圧消火器のように破裂など二次災害の心配なし

万が一腐食等で亀裂などが入った場合、蓄圧しているガスが抜けるので安全です。(加圧式の場合、使用時に最大圧力がかかるため腐食部分から底が抜ける事故が起こる危険あります)

■蓄圧式仕様で、女性にもやさしい操作性を実現

蓄圧式消火器は殆ど無反動です。この優しさが、女性や子供しかいない場合の火災現場で更に役に立ちます。

■窒素加圧で、環境を大切に

従来の二酸化炭素による加圧から、大気中に多く存在する窒素による加圧に変更しました。これにより、地球温暖化防止を実現しました。

■エコマーク認定商品

ゼロエミッション(廃棄物ゼロ)を目指し、加圧ボンベをなくした蓄圧式消火器は、(財)日本環境協会認定のエコマーク認定商品で、グリーン購入に最適です。



蓄圧式消火器ラインアップ



「古寺秋色」(大津の三井寺)